

学校教育 目標	よりよい自分になる ～こどもたちの「よくなろうと」する力を引き出す～
育成を目指す 資質・能力	9年間を見通した児童生徒の「自己表現力」の育成

	学力状況について	学習状況について
児童 生徒 の 課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 大分県の平均点を上回る教科・領域がほとんどであるが、問題の意味を理解し、自分の考えが伝わるように表現を工夫して書く問題で正答率が低い。 【5年県学力定着状況調査より】 国語 「調べたことをもとに文章を書く」27.4% 算数 記述式問題(2問)40.0% 【6年全国学力・学習状況調査より】 国語 「目的や意図に応じて書く」62.9% 算数 記述式問題(2問)43.5% 【8年県学力定着状況調査より】 社会 「情報を読み取りその内容について記述する」11.8% 【9年全国学力・学習状況調査より】 国語 「自分の考えとそのように考えた理由を書く」15.4% 数学 記述式問題(5問)38.0% 理科 「予想される実験の結果を記述する」9.5%	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 自分の意見や考えを条件に従って書いて表現したり、説明したりする問いに対して正答率が低く、無回答の割合も高い。質問紙でも、肯定的回答が多くないことから苦手意識があることが分かる。このことから、適切な言葉を用いて表現する活動が十分ではないと考えられる。 【5年県学力状況調査(質問紙)より】 ・「クラスやグループ、友だち同士で話し合いをするとき、積極的に発言をしていますか」62.9% 【6年全国学力・学習状況調査(質問調査)より】 「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している」57% 【8年県学力定着状況調査(質問調査)より】 ・「課題の解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して発表するなどの活動によく取り組んでいる」43.2% 【9年全国学力・学習状況調査(質問調査)より】 ・「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」35.1%
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) ○学校評価では「授業の中でノートに自分の思いや考えを書いたり、発表したりして伝えることができている」と答える児童生徒は82%であった。 ○単元末テスト(1～6年生)では、国語で80点以上が76%、60点未満が9%、算数で80点以上が64%、60点未満が12%であった。 ○学力診断テスト(7～9年生)では、3学年5教科において平均得点70点以上の教科が20%以上、55点未満が13%であった。	
指導 の 状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ・書く力を育むための日常的な取組としての授業の振り返りの時間の確保(1年～9年) ・ペアやグループでの教え合い学習を取り入れ、学んだことを伝え合う場の確保(1年～9年)・・・構成員力 ・英語によるやりとりや表現活動を1年生から実施 ・研修部との連携による月1回以上の表現活動に関わる実践交流	2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ・朝学習における基礎・基本の定着を目指した算数の練習問題への取組(1年～6年) ・「書く力」を育成するプリント学習(6年)・・・構成員力、推敲力 ・「天声人語」の視写と感想まとめ(7年)・・・構成員力 ・1分間スピーチの通年実施(8年・9年)・・・構成員力、推敲力

学力に関する達成指標

- 国語の単元末テスト(1～6年)80点以上の児童80%以上、60点未満の児童10%未満。
 ○算数の単元末テスト(1～6年)80点以上の児童70%以上、60点未満の児童10%未満。
 ○学力診断テスト(7～9年)70点以上の生徒50%以上、50%未満の生徒25%未満。

今後の 具体的 な取組	【授業改善】	【家庭との協働】
	〈授業改善のテーマ・重点〉 〈授業改善テーマ〉 ○9年間を見通した児童生徒の「自己表現力」の育成 〈授業改善の重点〉 ①表現活動を可能にする共感的人間関係の育成 ②一人一人が自分の考えをもつことができるような課題設定 ③児童生徒の活動や表現する場を重視した授業の実施	〈学びに向かう姿勢の習慣化を目指し家庭学習の充実を図るための連携・協働〉 ○「家庭学習の手引き」を発行し、各家庭に配付した上HPに掲載し周知活用に努めている （昨年度の内容を見直し改訂） ・小学校低・中・高、中学校に応じた、家庭での学習時間の提示 ・学年段階に応じた自主学習の運用例 ・筆箱の中身の統一 ・具体的な「生活習慣作り」「学習環境作り」の勧め ○保護者による授業サポート(1～6年生) ・家庭科の実習補助 ・読み聞かせ ・校外学習の引率の補助 ○家庭学習支援(1～6年生) ・保護者による音読チェック ・算数の問題、漢字練習のまる付け等 ○教育相談(保護者との二者面談)内容の充実(7～9年)
	〈取組内容〉 ○共感的な態度や共感的な言葉かけができるような集団作りを行う。 ○児童生徒から生まれる疑問を大切に、考えがもちやすい課題を設定し、自分の考えや思いを表現できる場を工夫する。 ○ペアやグループ活動を多く取り入れたり、振り返りの視点を提示したりして考えや思いを表現しやすくする。	
	〈取組指標〉 ○思いや考えを交流する場を1日に1回以上設け、互いを認め合える集団をつくる。 ○月に1回研修・学習部会において、児童生徒の学習の状況を共有し、改善に向けた授業づくりに努める。 ○単元に1回以上、対話的な活動を中心とした授業、視点を与えた振り返りの場を設ける。	
	〈検証指標〉 ○児童生徒アンケートにおける肯定的回答「自分の思いや考えを書くことができる」90% ○児童生徒アンケートにおける肯定的回答「自分の思いや考えを発表することができる」80%。 ○教職員アンケートにおける肯定的回答「自己表現力を意識した授業を行い、児童生徒の表現力が向上した」80%。	
	【授業改善以外の学力向上の取組】 ○管理職の授業観察による指導・改善 ○小学校中高学年での教科担任制の推進および小中教員による乗り入れ授業の実施 ○校内研究と連携した生徒指導の3機能を意識した自己存在感を与える授業、共感的人間関係を育む授業の研究	